

坂出市報

所 行 發
所 役 市 出 坂
町島坂市出坂
番〇五表代話電

八行發報編
孝 澄 條 中

所 訓 印 内 武 所 訓 印
造 内 武 人 訓 印

挨拶 市長 鎌田 榮

皆さん、都市としての誇りは過去と現在の文化が將來も不朽の價値を持つものであること、すなはち停滞しない活動力と創造力によつて我々の祖先や先輩の思想や事業が國と市民の福利にどんな影響を及ぼしたかまた今後及ぼすかといふことにあると思ひます。我々の祖先は赤穂城主の施政に耐へないで、この地を安住の理想郷とし耕地を開き塩田を築いて苦心慘澹たる坂出發展史の第一頁を飾りましたが「市神」ともいはれる久米通賢翁が一身一家を顧みず一大塩田を作るにあつてこれに協力した祖先の功績が今日の進歩の基礎となつたことを思ひますと、百數十年の間我々の祖先は常に立派なる坂出の歴史を傷つけぬやう専念し、さらに立派なものを創造せんと努めて來たことが判ります。このやうな絶へない努力こそ坂出人の使命であると思ひます。由來、坂出人は産業に、港灣に、教育にその他あらゆる方面に持前の事業心を發揮して縣政の中心を誇り圓滿な發達を謳歌することが出來ましたが、その間諸先輩のたゞならぬ勞苦に對したたゞ感謝するばかりではありません。一体、事業は大小の差こそあれ一朝一夕に成るものではないとせん。よく將來を見透す識見と抱負と活動力により市民全体が小事も大事に統合するといふ寛容な愛郷心ではじめて成就するものと考へます。坂出は今後どのやうに進むべきか坂出人としては如何に生くべきかは殘された大きな問題ですから市當局としては愛する坂出の在り方を十分調査研究して苟くも大乗的に是であると思ひたことは明日の坂出發展へと邁進するばかりです。幸に愛市の念にみなざる皆さんの御協力により市勢は日々進展してゐますし現在市政業務に携はる私達は互に鞭撻しながら文化の向上に努めねばならぬと思ひますが、それが爲には今後すべての皆さんが市政に關心を持ち理解し援助していただくがねば圓滑に運営することは出來ないと思ひます。この意味から今回市の行政事情を公開し併せて皆さんの御意見を伺ひ、併せて活潑に國家再建の任務を果すべく市報を登刊した次第であります。

ふくれぬ坂出!!

八月には四萬突破か

産業課では毎月末に配宅關係費六萬三千圓、給入口を調査してゐるが、昨年六月末に七千六百三十七戸、三萬三千七百七十八人だったのが本年五月末には八千七百九十一戸、三萬八千八百五十五人に増加し、さらに六月末には八千九百三十五戸、三萬九千三百五十二人となりこの増加率でゆけば八月末には四萬を突破することゝなろう

市民病院建つ

本市は四大事業の完遂をめざしてそれ〴〵實現に邁進してゐるが、社會施設は見るべきものがなく遺憾としていたところ今回市民が多たが、その後百五十九萬六千余圓の追加となつた、このうち主なるものは港灣關係四十五萬圓、引揚戰災緊急住

豫算二百六拾萬圓

市の當初豫算總額は百萬三千九百九圓であつたが、その後百五十九萬六千余圓の追加となつた、このうち主なるものは港灣關係四十五萬圓、引揚戰災緊急住

麥の供出完遂す

郡市のトツフを切つて

本年度市の新麥割當量は三千二百四十石であつたが最近の食糧事情にたがみ農家が眞心に完遂した

市政日誌

七月主要市政日誌	一日	市立病院設立打合せ
	二日	市立病院設立打合せ
	三日	食糧調整委員會
	四日	食糧調整委員會
	五日	麥供出割當協議會
	六日	市會協議會
	七日	海外引揚者廉賣所設置打合せ
	八日	市參事會 農家米麥配給打合せ
	十日	蔬菜廉賣打合會
	十二日	土木部會 市內清掃打合會
	十五日	市營塩田築造打合會
	十七日	アンガウル島行船員豫防接種
	十八日	市立病院設立懇談會 臨港鐵道用地ニ關スル懇談會
	廿二日	三市教育聯合研究會
	廿四日	青果物公定價格打合會
	廿五日	鮮魚需給調整委員會
	廿六日	接客業者ニシテ豫防接種
	廿七日	市參事會 市會協議會 市內青年學校長會